

「縁が輪(縁側)になる庭」の計画設計～緑の環境プラン大賞への挑戦～

造園緑化コース

1. はじめに

私は、人々の暮らしを豊かにする仕事に就くため園芸について学びたいと考え、当校に入学した。学んでいくうちに、その中でも特にランドスケープデザインの魅力に惹かれた。緑のある空間は癒しとなるだけでなく、環境問題の解決に繋がると共に人々が集う場所となる。そういった空間を造ることで、自分の過ごす社会をよりよいものにしたいと考えている。その第一歩として、緑の環境プラン大賞へ挑戦することを決めた。

2. 緑の環境プラン大賞

緑の環境プラン大賞は、美しい景観を形成し人と自然の共生に寄与する市民団体等の優れた緑化プランを顕彰し、助成を行うものである。緑豊かで安全・快適な都市の実現、豊かな次世代社会の創造に寄与することを目的としている。

ポケット・ガーデン部門は日常的な花や緑の活動およびクールスポットの創出を通して、地域交流やコミュニティの活性化・子どもの遊び場作り、公共施設等での情操教育や身近な環境の改善等のアイデアを盛り込んだプランに対して、緑地の整備等の費用を助成するものである。

3. 計画条件

ぎふワールド・ローズガーデンについて調査した結果、①清掃や花木等の管理の強化②公園施設の利用促進③若者に魅力があると感じる、伝わる④地域住民がより関わりやすくなる、以上のことにつながる計画が必要だと考えた。

計画地は花トピア建物東側の庭園である(図-1)。花トピアでは花と緑に関するさまざまな展示を年間を通して行っているほか、飲食可能な休憩スペースがある。計画地には2015年の卒業制作である「岐阜の花街道～みち(未知)～」がある(写真-1)。指定管理者へのヒアリングとともに、既存植物の計測を行った。現地調査の結果をまとめると以下の通りである。アジサイをはじめとした低～中木が繁茂しており管理ににくい状態になっている。全体的に施工時の図面とは乖離している状態だった。庭園としては特に活用されおらず、外側・施設内側のどちらから見ても煩雑とした印象で、施設利用者や学生等が近寄ることはない。また、本来園路である敷石上に繁茂した植物がかかっているため、人が入って利用することができなくなっており、施設内側から直接庭園に出られる扉は出入口として機能していない状態となっている。



図-1 花トピア周辺地図



写真-1 現地調査時の計画地

4. 計画設計

人が集まってお茶を飲んだり、子どもが遊んだり、お年寄りが座っていたりと建物の外と内を繋ぐ「縁側」のような庭にすることで、公園利用者や学生、地域住民、花トピア施設での催事主催者などがコミュニケーションをとり、人々のご縁が輪でつながるような庭へとリニューアルする。花や緑に関心のある方々のご縁をつなげることで、公園を訪れる人々の生活が健康で心豊かになる一助とすることをコンセプトとした。これらをふまえ、交流・憩いの場や写真スポットとなるような場所を含み、来園者や地域住民とともに花と緑に関する活動拠点となる場所で、子どもの情操教育に役立ち生態系ネットワークに貢献しつつ管理しやすく環境に合う植栽をする計画とした。応募書類に使用する、計画平面図、全体イメージ図、園路イメージ図、デッキ・ベンチイメージ図を作成した(図-2)。

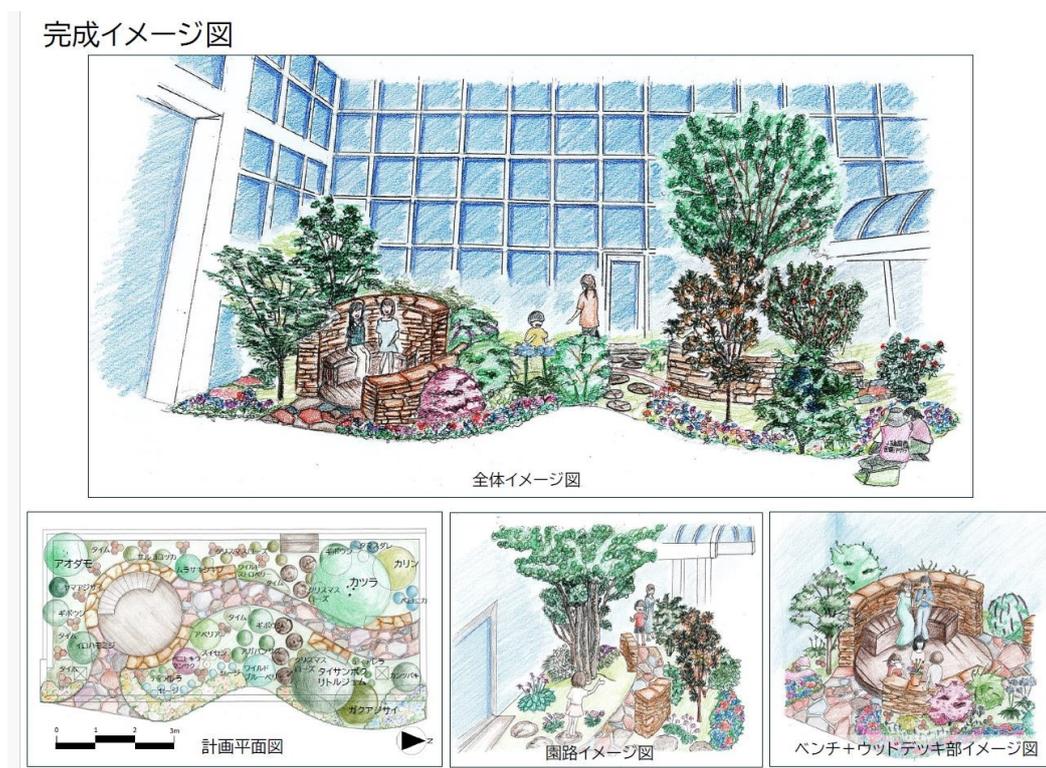


図-2 完成イメージ図

5. 実施設計

本計画は10月下旬に緑の環境プラン大賞ポケット・ガーデン部門コミュニティ大賞の受賞が決定した。そのため施工に向けて実施設計図面および数量計算書を作成し、全体の見積を可児造園協同組合、ウッドデッキ部分の見積を西垣林業(株)に依頼することとなった。工事の完成は3月末を予定している。

6. まとめ

今回の卒業研究・卒業制作を通じて1番強く感じたことは、計画から実施設計まで自分で思っていたよりもとても長く濃いということである。設計職の仕事はデザインだけでなく多方面とつながっていることがよくわかった。また、「ランドスケープデザインはその場所と人について知ることが大切である」ということの重要性をより深く知ることができた。今回学んだことを遺憾なく発揮し、緑と花のある豊かな社会づくりに貢献していきたい。